

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年6月3日
長崎市立畝刈小学校
学校だより NO. 17
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中安全教育の推進＞

～尊い命を守る～

6月に入りました。雨の季節です。これから十分気を付けていきたいのは、「水の事故」です。子供たちは、この時期暑さもあってか水場に近づきがちになります。

- ① 水路や川に近づいてしまう
- ② 海や川に入ってしまう
- ③ 側溝に足や傘を入れてしまう

海や川に行くことや釣りなどは、大人と一緒にいくという決まりになっています。

先日も他県で4歳の子供が用水路で手を洗おうとして落ちて命を落としています。毎年必ずこの時期や夏になると水の事故で尊い命が失われるというニュースが報道され悲しい気持ちになります。

学校にも地域の方々から毎年「川に降りて遊んでいる子供たちがいる」と連絡があります。「傘を振り回して遊んでいる」というのもよく耳にします。「水風船で遊んでごみをそのままにしている」子供らしいのですが、安全のため、周囲に迷惑をかけないためにも注意をしていかなければなりません。この他にも、傘で周囲が見えにくくなり交通事故にあう可能性も出てきます。この時期様々なことに注意が必要になってきます。

学校でも水泳の学習が始まります。水慣れや泳ぎ方、水中での目の開け方、浮き方等自分の命は自分で守るための学習を行います。安全対策としては、水の中だけではなくプールサイドからの監視を付け、子供たちが安心して安全に学習に取り組むことができるような体制をとっていきます。

水の事故に限らないのですが、「自分の命は自分で守る」方法を、周囲の大人が子供たちにしっかりと教え、意識を高めることで事故を未然に防いでいきたいと思います。ご家庭でも機会あるごとにお話をしていただけると幸いです。

よろしくお願いいたします。